



天神町での大規模災害時の人口ワークシナリオワークショップは2009年11月7日（土）2009年12月19日（土）の2回にわたり天神町会館において実施されました。

マップ、地域の自然災害特性、住民特性（年齢分布・防災資源など）に基づき、どのような状況下で発災することが問題なのか（災害リスクの可視化）に、住民・学校関係者・市民センター関係者など約20名の参加のもとで全体像が議論されたワークショップ参加住民に対して、平日の昼間の在宅状況と、平時の通勤時間などにアンケート調査を行い、一般公表統計では把握しにくい住民特性を知ることが出来ました、

●第2回ワークショップ（2009年12月19日）では、第1回のWSにおいて（1）地域の自然災害形（過去⇒現在）、地質、ハザードマップなどを用いた理解（2）地域の社会特性（昼夜間人口、通勤時間、自主防災組織の現状、各種防災資源、避難所となる学校の防災計画など）理解がなされたことを受けて、以下の前提で災害が発生するとした場合に、地域シナリオをeコミマップを使い関係者の動線を入れながら検討しました。

■災害の種類と発生条件としては、南関東地震が平日の午前10時ころ、地域住民のうち地域外への通勤、通学になっている状況で発生する。六会天神町の震度は6、一部の老朽化した建物に深刻な被害が出るが、全体として藤沢市の中心部ほどひどくはない。ただし負傷者は十数名程度発生する。家具の転倒による下敷きなどで死亡している可能性が否定できない。ライフラインは、電気が2日程度停電、都市ガスは安全が確認されるまで数日～週間程度断水し、電話は一時的に通話規制がかかる。

■WS参加者には災害発生時に各自が実際に所在している場所を前提にして、各自がその立場で対応する行動を提案してもらいました。検討された「状況と課題」は以下の3つです。

eコミマップを使って関係者の動きをトレース



配布資料



会場となった天神町会館



シーン1 状況と課題:災害直後の安否確認と情報集約  
連絡網を生かした地域の安否確認

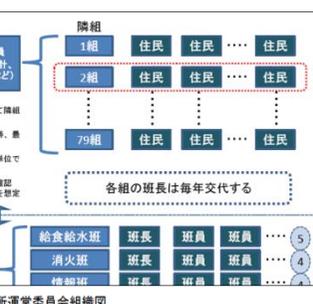
- 冬の日午前10時ころ、相模湾を震源とする巨大地震が発生しました。藤沢市の中心部のみならず湘南一帯が被災し、六会地区より大きな被害が生じている地域がありそうです。
- 天神町での建物倒壊などの被害は比較的軽微でしたが、家具などが転倒し怪我をしている人も出ているようです。身動きが取れずに助けを求めている人がいるかもしれません。停電やガス・水道の供給が停止し、電話も通話規制がされています。
- 住民のうち地区外に働きに出ている人はまだ戻っていません。子供たちは学校に行っています。住民全員の安否を確認し、地域の被害状況を整理する段取りを議論しましょう。被災当日の関係者の動きを追ってきましょう。

シーン2 状況と課題 災害時要援護者への支援  
災害時要援護者の地域支援

- 被災から3日が経ち、地域住民も復旧に向けて動き出しました。
- 被災程度が比較的大きかった住民の中に、家族の介護を必要としている人がいる。平時に利用しているデイケア事業施設が被災により一時的にサービスが受けられなくなりました。家族も震災という非常事態とはいえ、長期間仕事を休むわけにはいかない状況です。
- 災害時に要援護者を地域で支える仕組みを考えてみましょう。共同施設利用、個人支援、地域外支援など、多様な手段やその連携を考えてみましょう。そのための動きをトレースしましょう。

シーン3 状況と課題 地域資源  
地域にあるボランティア

- 被災から1週間が経ち、被災地にも全国各地から到着しています。六会地区も被害程度はからのボランティアと、地区に隣接する大学やアからの支援の申し出が来ています。
- ボランティアによる災害救援の経験がない、という支援を頼むことに不安を口にする人がいます。
- 地域のニーズにマッチしたボランティア活動的な支援につながります。ボランティアと地域に結びつけるには何をすればよいでしょうか。



避難施設運営委員会 会長	施設管理者
副会長	避難施設従事職員
名簿班	食糧班
物資班	救護班
衛生班	情報広報班



天神町会館で練習



藤沢駅近くの  
レディオ湘南スタジオ  
で収録本番！



●ワークショップの記録は藤沢災害救援ボランティアネットワーク（FSV）のスタッフにより記録・整理され、防災科学技術研究所のプロジェクトチームが分析したものをもとに、鎌倉市在住のアマチュア脚本家の水島孝さんが3話のラジオドラマ脚本に仕立てられました。こうして出来上がったラジオドラマは、藤沢市防災対策協議会の職員らによって、市民センターで収録された。